

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年10月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100815
法人名	医療法人 常清会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム風と光
所在地	鹿児島市紫原4丁目4番2号 (電話) 210-5241
自己評価作成日	平成30年8月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業所は、紫原の中心部にあり交通の便が良い複合施設内にあります。施設内には、高齢者専用賃貸住宅、生活介護事業所、発達支援センター、就労支援事業所、訪問介護、通所介護、めがね屋があります。近隣の発達支援保育所・隣接する認可保育所の園児達と定期的に交流会を実施しております。月に1回園外活動を実施し、可能な限り外出支援を行いご利用者様に季節を実際に肌で感じて頂いております。毎週金曜日には、外部講師による詩吟があり、詩吟や和歌を楽しまれています。法人母体病院から月2回理学療法士の訪問リハビリを受けており、利用者様1人1人に合った筋力維持リハビリ運動の指導をGH職員は受けて、それを毎日提供しADLの維持が図れる様にリハビリ援助を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○理念にある「その人らしさ」を大切に、個々の利用者の思いを尊重したケアの実践に努めている。理念を玄関や相談室前に掲示するとともに、毎朝全体で唱和し意識付けを図っている。また、理念に加え、理念をより具体化して日々のケアや支援につなげられる内容の年度目標も掲げることで、理念とともに共有を図り実践につなげている。

○身体拘束廃止委員会や感染症委員会、給食委員会や広報委員会他、多数の委員会を設置することで、職員全員が責任を持つとともに主体的になって研修会を企画し、業務改善に向けた話し合いを繰り返し実施している。

○利用者の高齢化に伴い外出が難しくなりつつあるが、屋内ばかりではストレスにつながる恐れがあるため、毎月1回は各ユニット単位で、花見や外食、大河ドラマ館等利用者の楽しめる外出先を選定し出かけている。また、保育園児との交流や地域住民を交えた夏祭りの開催、小学校の運動会や学習発表会に出かけるなど、積極的に交流している。

○運営推進会議には、民生委員や行政職員等が参加され、事業所の活動内容やヒヤリハット、外部評価の結果報告がなされるとともに、メンバーからの意見も多く集められるなど有意義な会議となっている。これまでに、内服薬の管理や服薬確認の方法等メンバーから提案された意見を十分に話し合い、改善に向けて取り組めた事例があるなど、具体的に成果につなげることができた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の復唱を行い、職員全員が施設理念を念頭に置き利用者様の生活の場としてその方の基本的人権を尊重し安全にその方らしく生活をして頂ける様に努めている。	「その人らしさ」を大切に、利用者の思いを把握し、尊重しながら日々の支援につなげている。また、理念のほかにこれから取り組みたいことを話し合い、年度目標として掲げ、目に付きやすいところに掲示し唱和することで意識付けを図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に来て頂き、外部の方との交流が図れる様にし、夏祭りや避難訓練等には地域の方にもお知らせをし参加して頂ける様に外部との交流が途切れることなく行っています。	保育園児との交流や複合施設内にあるデイサービスでの交流、8月には1階の食堂で地域住民を招いての夏祭りが開催され交流している。また、日常的に紙芝居やフラダンス、マジックショー等、慰問に来られるボランティアも多く、利用者と地域住民が楽しく交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議にて民生委員、長寿あんしん相談センター職員の方達と毎回勉強会を実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの報告等実施。その中で問題点等があれば民生委員の方や長寿あんしん相談センター職員の方達に相談等行い助言を頂き、その内容を職員と話し合い協議してケアの質の向上やヒヤリハット再発防止に努めている。	民生委員や行政職員等が参加する会議には、事業所の活動状況やヒヤリハット、外部評価の結果報告がなされている。メンバーから、誤薬を防止するための内服薬の管理方法の提案を受け、改善につなげることができたほか、感染症対策についての勉強会を組み込むなど有意義な会になるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>不明な点があった際は、市役所に問い合わせを行い、助言を頂き協力関係を築ける様に取り組んでいる。</p>	<p>行政職員とは、運営推進会議で顔を合わせるほか、介護保険に関する相談や各種書類の提出等でも顔を合わせるなど、意見交換する機会は多い。また、感染症についての研修会の案内等、行政主催の研修会に参加することもあるなど、日頃から事業所の実情の理解と連携を深めることができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は夜間帯のみ実施。日常的に身体拘束は行わない様に周辺症状が強い方達には声掛け・寄り添いのケアを徹底して行い周辺症状の緩和に努めている。全職員が身体拘束を行う事の弊害等を理解し身体拘束ゼロを念頭に置きケアを実施。定期的に身体拘束の勉強会を実施。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に定期的に内部研修を実施している。自由な暮らしを支援するため、職員は見守りや声かけをこまめに行っているが、歩行が不安定な利用者の室内での転倒予防のため、本人・家族の承諾を得て、センサーマットを利用する場合もある。また、言葉による拘束については、気付いた時は職員間で注意し合うようにしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的虐待や精神的虐待・スピーチロック等の虐待に繋がるケアを行わない様に勉強会を実施。職員の意識統一に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度に関しては勉強会を実施。職員は今後も継続して勉強会を実施していく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用契約を結ぶ時点で十分な説明を行い、分からない所や不安な所を尋ねやすい雰囲気作りを行い、ご家族が契約内容の理解・納得が得られる様に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様やご家族からの意見や要望は、毎日の朝礼時やミーティング時に報告、ケース記録や連絡帳にその内容の記載を必ず行い全職員が周知徹底が行える様にしている。要望時には随時対応を行い要望に添える様に努めている。</p>	<p>家事に参加したい等、本人の意向や暮らし方の希望を尋ね、可能な限り実現できるよう支援している。家族の意見は面会時に必ず会話をし意見を尋ねるようにしている。把握した内容は、連絡ノートに記録し、申し送り時等、随時職員間で確認することで情報を共有している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体ミーティングやユニットミーティングにおいて意見や提案を聞き、職員全員で議論し運営に反映させている。又、ミーティング等では話せない事等は個人面談を実施して意見等を聞く様にしている。</p>	<p>管理者は運営に関する職員の意見を、毎月実施している職員会議やユニット会議で確認するとともに、日常の会話や個別の相談からも汲み取っている。今年から管理者の下にユニットリーダーを配置したことで、意見が多く集められ、意見の反映につながられた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>資格取得支援として勤務の融通を図っている。又、子育て支援の一環で看護休暇や職員の時短勤務、勤務シフトの融通を導入し子育てをしながらでも働ける環境作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修を毎月実施。担当職員が主体となり勉強会を実施する事により職員1人1人の自主的行動を促していく。又、外部研修にも全職員が参加出来る様にしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との交流は余りない状態。今後、関係作りに同業者同士でのネットワークの構築を行いお互いに情報交換等を行っていきケアの質の向上に繋げる必要がある。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所初期の段階ではその方に寄り添い・話の傾聴を行い他利用者様・職員との信頼関係を構築し安心・安全だと思える様に援助を行っていく。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の面談の時点で本人・ご家族からのGHで生活する上での要望や考えられる問題点等の話し合いを実施し、本人・ご家族様との関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人・ご家族との面談を実施し、その方に必要な福祉用具やサービス利用の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方1人1人を人生の先輩とし、人権を尊重し生活の知恵や昔の出来事・料理方法等教えて頂いたりGH内の家事援助を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や病院受診、外周外泊、園外活動への参加等出来るだけ協力を頂ける様に、ご利用者様を中心として支え合っている関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、馴染みの美容室・病院や自宅への外出・外泊等を行ったり、ご友人の面会、電話での連絡取次等を実施。馴染みの関係が途切れる事がない様に援助を行っている。	入居前の情報を、本人・家族による面談や介護支援専門員、主治医からも情報を収集し、「事前調査シート」に詳細に記録している。友人知人とのつながりを維持できるよう、電話や手紙の取り次ぎを行い、馴染みの場所には家族の協力をもらい外出するなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しスムーズなコミュニケーションが図れる様に職員は仲介に入り余暇活動の提供を実施。利用者様同士で声を掛けあえる様な関係作りの支援を実施している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所されたりした際は、GH退所後も面会等を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各個人センター方式シートを記入。その情報を元にその方の意思や希望を尊重したケアの提供を行っている。	思いや暮らし方の希望を本人や家族、関係者から聞き取るとともに、思いを上手く伝えられない場合は、日頃の様子や仕草等から把握するようにしている。把握した内容は連絡ノートに記録し、申し送り時に共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の時点で、本人・ご家族様より情報収集を実施。又、入所後も随時情報収集に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の声掛け、バイタルチェック、状態観察を行う事により職員は随時利用者様の状態変化の把握を実施。常に利用者様の身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は、ケアチェック表記入後、事前に主治医意見書に記入して頂き、本人・ご家族・居室担当職員等で担当者会議を実施。各関係者の意見を総合しご利用者様のニーズに合ったケアプラン作成を実施している。	本人、家族の意向を基に、毎月のカンファレンスや定期的に行っているモニタリング、主治医の意見も参考にしながら介護計画を立てている。また、状態に変化がみられた場合は、計画を見直し、作り替えることで、常に現状に即した介護計画を作成し、関係者に交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果・行動や言動他、細かな状況を記録に残し職員間で情報共有。問題点がある際は問題解決を図りそれらを元にモニタリングを行いケアプラン見直し、新たなケアプラン作成の際の情報として反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族同伴の病院受診が困難な際は、職員が同行を実施。出来る限り利用者様が必要なサービスは提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の園外活動や近所の公園に散歩等を行い地域資源と共に暮らしていける事を感じてもらい安心して豊かな暮らしを楽しめるように支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を図り、ご利用者様のかかりつけ医とも適切な関係を築きながら適切な医療が受けられる様に支援している。	本人、家族の希望する病院を受診できるよう家族と職員が協力し合い支援している。家族が受診を支援する際は、バイタル結果を主治医に渡してもらい指示を受けるようにしている。把握した情報は、業務日誌等に記録し、申し送り時に共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の変化等、気になる事がある際は訪問看護師に報告を行い指示を仰ぎ病院受診が行える様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時にはGHでの生活状況・身体状況等をまとめて情報提供を実施。退院時にも病院のSWの方達と連携を密に図り関係構築を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っておらず。	病状の説明や重度化した場合の対応についてを、主治医を含む関係者全員で話し合い決めている。延命治療についての確認書を作成しているが、重度化や終末期支援に関する指針については作成されておらず、口頭での説明に留まっているため、今後は書式化し明確にしたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の訓練や、勉強会は定期的に実施している。今後も継続して勉強会を行っていく必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回施設全体の避難訓練、年に2回GH内での自主避難訓練を実施している。地域の方々との協力体制の構築を今後も進めていく。	同一建物の施設全体での災害訓練を年2回実施するほか、事業所独自の訓練も年2回実施している。訓練には近隣住民の参加も得られ、主に避難誘導と見守りを協力してもらい実施することができた。備蓄に関しては、事業所での備えはわずかだが、施設全体では十分量が確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち、その方の尊厳を傷つける事のない様に声掛けやケアの提供を実施。	接遇委員会を中心に人格を尊重したケアの実践に向け、定期的に研修を実施している。トイレ誘導の際は、小声で意志を確認したり、目隠しのためポータブルトイレにカバーを掛けておくなど気配りがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションや表情・仕草等からご利用者様の思い・希望等をくみ取る事が出来てそれを自己決定に繋げる様に声掛け・ケアの提供を実施。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の場としてその方1人1人のペースや生活リズムに合わせたケアの提供を実施。業務中心のケアではなく利用者様を中心とし、きちんと希望に添えているか確認を行いながらケアの提供を実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容を利用している。又、毎朝の更衣等のご利用者様の着たい洋服等の確認を行い更衣等実施。整髪・髭剃り・洗顔等の声掛け、援助を行い清潔保持、身だしなみ・おしゃれ等の支援を実施。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや昼食の下ごしらえ、片付け等を手伝って頂く。又、小鉢メニュー作成時にご利用者様の意見を反映させてその季節に合った食材を使用する事で楽しみ作りに繋げている。	主菜は1階の食堂で作ってもらい、小鉢やみそ汁は手作りし提供している。食事の準備や下ごしらえを利用者と職員が共に行い、同じ食事を会話を楽しみながら食べている。また、季節毎の行事食の提供や定期的に外食に出かけるなど、食べる楽しみを大切に考え支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に必要な栄養摂取量を把握し提供。水分はこまめに声掛け・提供を行い脱水防止に努める。水分摂取が進まない方に関してはその方の嗜好に合った飲み物等を提供する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要な方は一部介助を実施。口腔内の清潔保持に努めている。自立の方に関しても声掛け・見守りを徹底して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握を行う為に排泄チェック表を利用し随時トイレ誘導を実施。出来るだけ排泄感覚の維持を図ると共にトイレにて排泄して頂ける様に排泄自立支援を行っている。	排泄チェック表を参考にしたり、トイレに行きたい素振りを確認した場合等こまめにトイレに誘導している。ポータブルトイレや排泄補助具を使用される方も日中はトイレでの排泄とすることで、補助具の使用を減らす努力につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便がある様に水分補給を徹底して行い、トイレ使用時の腹部マッサージ・適度な運動等を行い自然排便を促しているが必要に応じて下剤等を服用して頂いているが脱水等を起こさない様に十分注意を払い与薬を実施。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意向を確認して入浴を行っているが、その日の状況で行えない事もある。必ず1人ずつの個別支援を行い同性介助を出来るだけ行える時は実施している。	週3回、午後から入浴できるよう支援しているが、利用者の希望や汚染時等、随時入浴は可能である。入浴したくないと言われた場合は、声をかける職員を変えたり、声かけのタイミングを見計らうなどして対応し支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂ける様に日中の活動の充実を図っている。気持ちよく休んで頂ける様に寝具類の清潔を保ち適温で過ごしやすい環境を提供している。日中も利用者様の状況に応じて休息をその都度促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関しては職員がいつ、誰が何を服用しているか理解して服薬介助を行う。誤薬を防ぐ為に日付・名前を出勤職員全員で確認して服薬介助を実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動の時間を設け利用者様1人1人の能力に応じた個別レクリエーションの提供を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出支援は難しいが、ご家族の協力を頂き出かけられる様に支援している。月1回の園外活動を実施。	屋内ばかりではストレスにつながるため、毎月1回は外出できるよう年間行事計画を立てている。初詣や季節毎の花見、ソーメン流しや大河ドラマ館見学等、利用者が楽しめる外出先に出かけている。ユニット単位の外出とすることで、外出されない利用者の見守り体制も整えられるなど、細やかな配慮がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物がある際は、お小遣いでどの位買えるのかを考えてもらったり、買い物外出時の支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により手紙・電話や携帯電話を所持している方は、それらでのやり取りが行える様に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを利用者様と行う。ベランダで野菜や植物の栽培を行い、利用者様には季節感を目で見て感じて頂いている。採光や空調にも気を付けてトイレや浴室は清潔を保ち気持ちよく利用して頂ける様に努めている。	リビングは明るく、季節毎に利用者の作品が掲示され、和やかな雰囲気が感じられる。加湿機能付き空気清浄機を設置したり、こまめに喚起を行うなど、空調にも気を配っている。トイレは各ユニットに3箇所あり、うち1箇所は車椅子対応で広く、手すりも充実しており大変利用しやすい設計となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が楽しく過ごして頂ける様に座席配置等を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持って来て頂き、写真や創作物を飾ったりして利用者様にとって居心地の良い環境作りに努めている。	ベッドやエアコン、チェストやテーブル、洗面台等、備え付けの家具が充実しており、大変使い勝手がよい。各居室の掃除や喚起の徹底、加湿器を使用するなど、感染症予防にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が出来る方は、手摺を掴み安全に歩いて頂き、車椅子自走される方は安全に車椅子自走が出来る様に障害物等なく安全な環境で生活して頂ける様に努めており、1人1人の自立に繋がる支援を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない